

2025年度 第1回

グローバル・コミュニケーション学会講演会

演 題

バレエ『パレード』を読むー

コクトーの台本に隠されたもの

ピカソの舞台装置と衣裳、サティの音楽、コクトーの台本によるバレエ『パレード』（1917年初演）は、20世紀の前衛的な舞台の傑作と評されています。ところがその実像をとらえることは容易ではありません。ひと癖もふた癖もある芸術家のコラボレーションであることに加えて、コクトーの台本として残されているのが、1ページにも満たない、あまりにシンプルなテキストであることもその理由でしょう。同時代のコクトーの作品や断片的な資料を手がかりに、台本の行間に隠されたものを探ること、これが今回のお話の目的です。

講 師

笠井 裕之 氏（慶應義塾大学法学部教授）

日 時

2025年6月4日（水） 13:10～14:40

会 場

京田辺キャンパス知真館1号館 216 番教室

同志社大学

グローバル・コミュニケーション学会